

「すでに転がされていた石」 (要旨)

聖書箇所：マルコ 16:1~8

今から 2000 年前、三人の女性(マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、そしてヨハネ)は、まだ暗いうちに墓に向かいました。十字架で死なれたイエスの遺体に油を塗るためでした(16:1)。

彼女たちが早朝墓に向かったのは、義務感によるものではありませんでした。イエスに対する熱い思いがこのような行動に突き動かしたのです。主イエス復活の知らせを最初に聞いたのは、打算なくイエスが葬られた墓に駆けつけた女性たちでした。

【1】最期まで見ていた

早朝、墓に到着した女性たちの気掛かりは、墓の入り口を塞いだ大きな石をどうするかでした。彼女たちはイエスが葬られた時その場にいましたので、石の大きさも形状も知っていました。それゆえ、自分たちで動かせるような石ではないと『だれが墓の入り口から石を転がしてくれるのでしょうか』と話し合っていた(16:3)訳のです。

イエスの死を前にイエスの弟子たちが散り散りバラバラになる中で、彼女たちは、その場に留まり、辛く、悲しく、絶望的な場面を見ていたのです。彼女たちはイエスが墓に葬られるその最期まで見ていました。それにも関わらず、この日、イエスの墓の前では墓を見ずに話し合っていたというのです。墓に納められたイエスは、生きている彼女たちと隔てられた場所に置かれていたからでありましょう。

【2】すでに転がされていた石

「ところが、目を上げると、その石が転がしてあるのが見えた」(4)

この「目を上げる」は、「再度見る」とも訳せる言葉です。先入観によらず、もう一度見ると

既に石が転がされていたという事実気が付いたのでした。そして主の使い(「真っ白な衣をまとった青年」)が、「…あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。」(6)と、彼女たちにイエスの復活の知らせを届けたのでした。彼女たちは、自分たちの常識からは想定も理解もできなかったイエスの復活の事実を知らされました。しかもそれが「ナザレ人イエス」という、ローカルな情報と共に届けられたのでした。女性たちは「墓を出て、そこから逃げ去った。震え上がり、気も動転していたからである」(8)と、想像もできなかったことを前に、まずは動転したのでした。

【3】復活の希望に生きる

イエスの死に際して女性たちは冷静でした。彼女たちは最期まで見ていました。しかしそうした女性たちを非常に動転させたのがイースターの日出来事でした。主イエスは十字架で死なれ、墓に葬られ、日曜日の朝、よみがえられたのです！主イエスを信じる者は、罪の中に生き続けることはありません。主イエスを信じる者は墓に葬られて終わることはありません。主イエスを信じる者は全ての罪が赦され、イエスと同じように復活する希望に生きるのです！

さらに主イエスの復活は、私たちを変えられない過去の観察者に留めません。過去の痛み、悲しみ、後悔を抱えながらも、それでも「目を上げる」ようにと促すのです。あなたが今日という日を喜び生きることができるよう。

